

唐津市総合教育会議

スクールカウンセラー等 による教育相談体制の 充実について



令和3年8月26日(木)

唐津市教育委員会

1 教育相談事業について

(1) スクールカウンセラー事業

2 スクールカウンセラーの活用状況について(R2実績)

(1) 相談内容

(2) 演習・事例研修会・講話等

3 青少年支援センターの活用状況について(R2実績)

(1) 相談内容

4 充実に向けた課題

(1) スクールカウンセラー事業

(2) 青少年支援センター事業



1 教育相談事業について

(1) スクールカウンセラー事業について

事業内容	小学校（33校）	中学校（18校）
名称	佐賀県スクールカウンセラー配置事業	スクールカウンセラー配置事業
財源	市費（2/3負担）・県費（1/3負担）	県費（2/3負担）・国費（1/3負担）
配置方式	県が各市町に配置	県が各学校に配置
配置人数	9名	9名（小学校と同じスクールカウンセラー）
勤務形態	原則、1日当たり4時間または8時間 （離島は例外的に6時間勤務あり）	*小学校と同じ
業務内容	児童生徒へのカウンセリング 保護者への助言・援助 等	*小学校と同じ

1 教育相談事業について

(1) スクールカウンセラー事業について

事業内容	小学校（33校）	中学校（18校）
担当時数の割り当て	県から付与される年間時数を、昨年度の実績と学校規模に応じて市町教育委員会が各学校ごとに割り当てている	県から各学校ごとの時数が割り当てられる
1校当たりの担当時数	年間12時間～100時間	年間20時間～240時間
SC1人当たりの担当時数	年間52時間～309時間	年間80時間～320時間
年間合計時数	1,432時間（H31～R3）	1,780時間（R2） → 1,812時間（R3）
緊急対応	R2年度なし	県費負担

* SC: スクールカウンセラー

2 スクールカウンセラーの活用状況 (R2実績)

(1) 相談内容

- ・ **相談対象者は、児童生徒、教職員、保護者、その他（祖父母、スクールソーシャルワーカー等）**

※ 内容の詳細は6ページに記載

(2) 演習・事例研修会・講話等

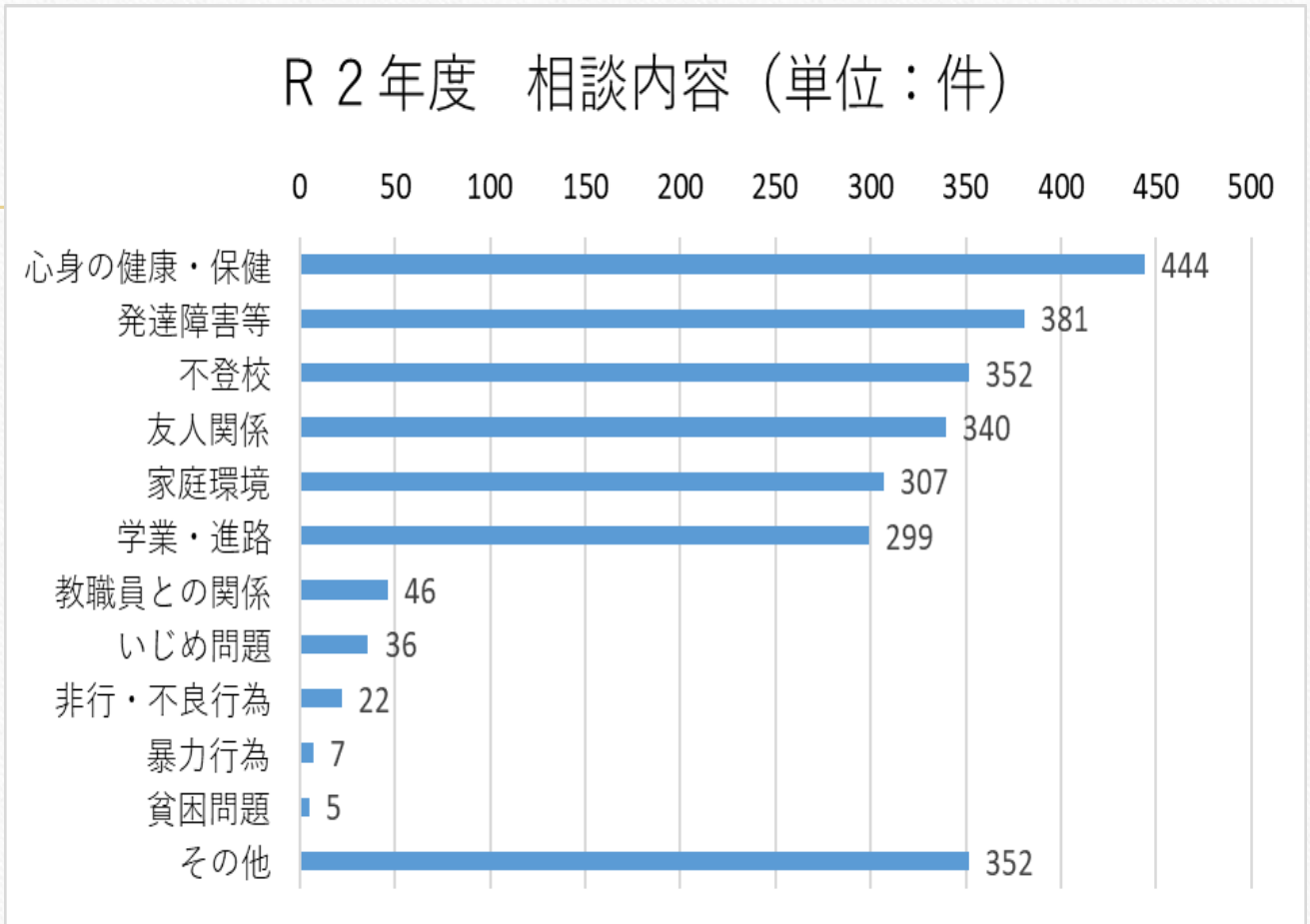
- ・ **カウンセラーを活用し、複数の教職員、保護者、児童生徒、地域の人等を対象に開催**

ケース会議、授業、職員研修、保護者研修



R2年度 スクールカウンセラーの相談内容の実績

	相談内容	単位 (件)		
		小	中	合計
1	心身の健康・保健	147	297	444
2	発達障害等	207	174	381
3	不登校	93	259	352
4	友人関係	140	200	340
5	家庭環境	137	170	307
6	学業・進路	173	126	299
7	教職員との関係	22	24	46
8	いじめ問題	18	18	36
9	非行・不良行為	2	20	22
10	暴力行為	3	4	7
11	貧困問題	3	2	5
12	その他	210	142	352
	計	1155	1436	2591



* 重複あり

3 青少年支援センターの活用状況(R2実績)

(1) 相談内容(上段は相談者、下段は内容別の内訳)

単位：件

	本人	母親	父親	両親	祖父母	学校	その他	合計
R元年度	785	683	24	34	32	36	6	1,600
R2年度	686	686	18	19	20	30	8	1,467

	不登校	引きこもり	非行	性	交友	いじめ	性格情緒	家族	進路職業	学校	発達課題	身体症状	問題行動	その他	合計
R元年度	481	41	-	3	1	-	391	8	5	8	570	33	57	2	1,600
R2年度	549	8	-	3	3	14	371	12	12	12	438	9	32	4	1,467

4 充実に向けた課題

(1) スクールカウンセラー事業

- 新型コロナウイルス感染症が拡大した場合
→ リモートによるカウンセリングの環境整備
- 校区内の小中学校や近隣学校との引継ぎや情報共有の円滑化
→ 同じカウンセラーの継続配置
- 来校回数（勤務時間数）の増加
（月に1回だと相談したいときにできない等）
- カウンセラーと担任、保護者との情報共有の時間確保
（勤務時間外に行うこともある）
- 緊急事案に対する時間の保障
（年間時数とは別枠の時間で）



4 充実に向けた課題

(2) 青少年支援センター事業

・ 相談体制について

多くのケースが親子による継続相談であるが、子どもを担当する臨床心理士が1名欠員状態となっているので、よりきめ細やかな対応をするために補充する必要がある。

・ 相談者の支援について

相談部活動の基本は継続面接相談であるため、センタースタッフで事例検討会を行い資質向上を図る。またスーパーバイザーの助言を積極的に活用する。

・ 青少年支援センター主催の研修会について

定期的に行っている教職員・センタースタッフを対象にした研修会の内容をより充実する。